

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・新商品のリピート客が来店し、また産地表示の確立により客の信頼感も高まり、見通しは明るい。
		一般小売店〔事務用品〕 （営業担当）	・年末までに取引先で新工場や新会社設立の動きがあり、需要増が期待できる。
		百貨店（営業担当）	・原油高騰の影響から家計費が圧迫されるという懸念材料はあるが、客の上質な暮らしへの消費態度は活発で、ファッション商品の単価は上昇に向かう。
		百貨店（売場担当）	・ブーツなどの秋冬商材の動きが、前倒し傾向で堅調に推移しており、今後も期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・客の一品単価が徐々に上昇しており、秋冬物の単価は前年に比べて確実に上がる。来客数が前年と同じであれば、売上は増加する。
		乗用車販売店（総務担当）	・10月には団塊世代や50歳代の熟年層向けに新コンセプトの高級小型車が発売される。新しい市場を切り開くものと期待しており、販売の上乗せをねらっている。
		その他専門店〔医薬品〕 （営業担当）	・団塊の世代は金銭的、時間的に余裕があり、健康食品、医薬品、医療用品などの購入増加に期待が持てる。
		観光型旅館（経営者）	・原油高も落ち着き、加えてこれから秋の行楽シーズンに向けて集客が期待できる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用客数の増加傾向が続き、また宿泊、一般宴会の増加も見込んでいる。
		タクシー運転手	・季節的に飲酒の機会が増え、また飲酒運転の取締りがますます厳しくなるため、タクシー利用客が増えると期待している。
		通信会社（社員）	・携帯電話の番号ポータビリティ開始により販売台数が増加する。
		通信会社（役員）	・県内の地上デジタル放送開始のニュースが多くのメディアで宣伝されている。年末に向けて浸透度が深まるにつれ、デジタルテレビの販売及びケーブルテレビ契約の増加が期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・資材の値上げや石油資源の高騰により、住宅メーカーの価格の維持にも限界がきており、来年以降の住宅価格上昇を見越す駆け込み客が増える可能性がある。また住宅ローン金利の先高感から、住宅購入の前倒し需要の増加が期待できる。
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・11月には隣県に大型ショッピングセンターがオープンするため、客が流れる懸念がある。
		百貨店（営業担当）	・婦人衣料は天候に左右される要素が強いが、夏物商品の単品志向に対して、秋物は旅行スタイルなどまとめ買いが期待できる。
		スーパー（総務担当）	・原油の高騰で商品価格が上がる懸念があったが、現状から判断してあまり影響がなさそうである。ただ、年末にかけて輸入牛肉などの動き次第で単価が下がると、売上が前年を下回る可能性がある。
		スーパー（副店長）	・販売促進キャンペーンの開催を10月から9月へ前倒しした結果、客単価は上がったが、依然として客は目的の商品しか買わないという傾向が見える。
		コンビニ（経営者）	・9月は弁当やおにぎりの売上が前年の8割に落ち込んでおり、この主力商品の停滞傾向が今後も変わらない。
		コンビニ（経営者）	・来客数は微増であるが、客の財布のひもはなかなか緩まず、購入量が増えない状況が続く。
		家電量販店（経営者）	・薄型テレビ、洗濯機が好調な半面、パソコン、DVDレコーダー、デジカメ、ビデオカメラが低調である。今後もこの傾向は大きく変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・低燃費、低価格車のレンジから外れた輸入高額車は先行き不安が大きい。
		乗用車販売店（営業担当）	・直近の土・日曜日の来客数は前年比10%以上の減少となり、今後好転する要素が見当たらない。
		自動車備品販売店（従業員）	・ガソリンの高騰が続き、軽自動車や小型車の比率が高くなっている。用品販売でも単価が上がらず、苦戦が予想される。
		その他専門店〔酒〕 （経営者）	・地酒の高級品の動きはまずまずであるが、その他は明るい兆しが見えず、厳しい現状がこのまま続く。

	一般レストラン（スタッフ）	・アルバイトの採用が難しい。光熱費、石油製品関係も値上げが相次ぎ、経営状況は相変わらず厳しい。
	観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は、来年2月まで前年をクリアしている。
	タクシー運転手	・タクシー運賃の値上げ申請が通るまでは利益は出ない。駅や空港などではタクシーの利用客が少ない。
	通信会社（営業担当）	・10月24日から携帯電話の番号ポータビリティが始まり、各社とも客の獲得に力を入れているが、当面は今と変わらない。
	テーマパーク（職員）	・客の利用動向は依然として弱含みであるが、施設のリニューアル効果も若干期待できるため、当面は横ばいで推移する。
	競輪場（職員）	・6月から4か月連続で1日当たり入場者数及び売上金額が減少している。車券の販売単価にも低下傾向が見られ、また入場者の高齢化が目立っており、この低迷状況が続く。
	美容室（経営者）	・来客数や売上が前年をクリアしても、翌月はそれ以上に減少するなど、先行きは不透明である。
やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・婦人衣料ではコートの売れ始めが前倒しになっているため、2、3か月先の実需期段階での中たるみが懸念され、やや実績が落ちることを心配している。
	スーパー（店長）	・寒くなるにつれ、ガソリンや灯油の値上がりがか計に大きな影響を与え、食品価格に対する客の態度が厳しくなる。
	スーパー（営業担当）	・9、10、11月は大型店を含む地元スーパーの出店が相次ぎ、安売り合戦の激化から、客の買い回りが加速する。買上点数は変わらないが、単価が安いため、売上は伸びず、また原油高騰の影響から収益の確保はますます難しくなる。
	コンビニ（経営者）	・今月から競合店に酒の免許が交付され、この影響が徐々に出てくる。また、客の購買態度に力強さがいないため、大型商品の発売や話題性のあるキャンペーンがないと苦しい。
	住宅販売会社（従業員）	・リフォーム部門は競争が激化し、また新築部門は伸び悩んでおり、全体では今後やや悪化する。
	住宅販売会社（従業員）	・原油高によりコストが上昇しても、営業現場での値上げは難しいため、分譲住宅の販売は進むが、注文住宅の販売スピードは遅くなる。
悪くなる	商店街（代表者）	・原油高騰の影響がガソリンだけでなく、他の商品にも徐々に広がってきている。従来はメーカーサイドで吸収していた製品の値上がり分を、ここにきて小売価格にも反映させる傾向が見られる。
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	-
	食料品製造業（企画担当）	・秋、冬を迎え、季節商材の提案に対する客の反応が良く、期待が持てる。
	繊維工業（経営者）	・春物生産の動きが相当早まりそうである。
	金融業（融資担当）	・金利や原油価格の上昇など諸々の問題が横たわっているが、工場増設など設備投資意欲が高まる兆しが見える。
変わらない	繊維工業（経営者）	・原材料の値上がりが収益を圧迫しているが、この転嫁ができるかどうか、不透明な状況が続く。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・原材料の値上げも少し止まったようであり、大きな変化はない。
	一般機械器具製造業（経営者）	・受注残高はハイレベルで推移しており、生産量の7～8か月分が確保されている。一方、機械業界の稼働状況が敏感に反映される刃の工具の動きについて、メーカーで若干生産調整するのではというニュースが届いており、少々気にかかる点である。
	精密機械器具製造業（経営者）	・眼鏡は年末商戦向けの生産に移行していくが、例年と比較して盛り上がり感があまりなく、厳しい状態が続く。
	輸送業（配車担当）	・今後、原油価格が横ばいで推移するにしても、物量の急激な増加は望めず、また燃料費の増加分を他で吸収することは難しい。
	通信業（営業担当）	・客が設備を更改する際は、別のコストを下げて充当するという考えが一般化しているため、新たなビジネスの創出とはならない。売る側でも保守・管理費用を下げて商品を販売するという手法を取っている。
やや悪くなる	建設業（経営者）	・リストラで技術者を減らしたため、何とか工事を受注しても、その工事担当者がいないという状況に立ち至っている業者が増えている。このような業者は遠からず倒産や廃業に追い込まれるが、関連業者の連鎖倒産も容易に予想され、地域経済にかなりの影響が出る。

	悪くなる	建設業（総務担当）	・官民を問わず、受注価格競争はますますエスカレートしており、半面、建築コストが上昇傾向にあることから、更なる悪化が懸念される。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・新規求職者数、有効求職者数共に前年同月比で減少傾向にあり、就職件数は前年に比べ増加している。また、新規求人に対する正社員の割合は、徐々にではあるが高まっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人状況はあまり変化しないまま推移し、またスキルのある人材の不足が今後も続く。
		人材派遣会社（社員）	・最近企業から新規の派遣依頼を受ける際に、派遣スタッフの働きぶり次第で正社員への転籍は可能かどうかの照会がよくある。相変わらず優良な人材確保の厳しい状況が続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・販売・サービス業を中心に人材不足が続き、今後も継続的な求人が予想される。しかし、他の業種の求人は依然少なく、景気の大きな回復は期待できない。
職業安定所（職員）		・非正規型求人には応募者が集まらないことから、正規型求人に切り替える企業が増えつつあるが、わずかな数であり、先行きはまだ不透明である。	
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	-